



④大黒殿



⑤釈迦堂



⑥白雲稲荷



⑦絵馬堂

奉納された絵馬が飾られています。  
行事の際は休憩スペースとして中に入ることができます。  
(持ち込みによる飲食・喫煙は禁止)



### ⑧客殿

お寺の行事や来客時に使う場所です。  
普段は入ることができません。

### 大黒天

七福神の一神に数えられる大黒天はインドの神様です。インドから中国、そして日本へと伝来してきました。仏教の大黒天（摩訶迦羅）のご本体は久遠（永遠なるもの）のお釈迦様の変わられたお姿とも云われております。

黒色で恐ろしく陰しい姿であったのが、鎌倉期の頃より大国主命と結びつき、私たちがよく知る、福相に左手に袋、右手に槌、米俵に乗られたお姿となり、えびす神と共に知れわたりました。

日蓮宗の宗祖、日蓮大聖人もあつく信仰され、大黒天に関する論述も残されました。

大黒天神法には、「もし安置し供養せば、千人の人を養い厨房を潤す。もし三年専心に供養せば、必ず富貴・官位・福祿を授与す。必ず自然に栄え、楽しみが倍増して四季に美しい味の食を備える」と。その誓願を慈眼視衆生 福寿海無量（慈眼をもって衆生を視る 福寿の海無量なり）と云い、戦・商売（貿易）・富貴・堂屋・食物を守護される神様であり、また 身も心も貧しき人に福を与え、皆令離苦 得安穩樂（一切の人をして苦を離れしめ 安穩の楽しみを与える）でもある、「寿福円満 開運招福」の福の神であります。

## 送り火



毎年 8 月 16 日の夜 8 時に点火される「五山の送り火」のうち、「妙法」は当山の背後、松ヶ崎山の両峰に点火されます。これは改宗の時、日像上人が自ら杖をもって松ヶ崎西山に「妙」の字を画かれ、のちに下鴨 大明寺（現在は廃寺）の二祖、日良上人が東山に「法」の字を画かれたものであります。この送り火「妙法」は、お盆の精霊送りの聖火であり、松ヶ崎の心意気・信仰の火であり、さらには日蓮宗の妙法弘布の伝道火でもあります。

# 行願寺革堂

もともとは、一条通にあったのが、  
豊臣秀吉の命によって、現在の場所に移さ  
れたお寺です。

そのときに、寿老人も一緒にまつられたのだ  
そうです。

寿老人像は、入って左手にある  
寿老人神堂に、まつられています。

寿老人神堂の脇には、石で作られた  
七福神像もありますので、ぜひ見てきてくだ  
さいね。

## 【行願寺革堂】

中京区寺町通竹屋町下る

075-211-2770



## 因縁生起

霊麁山行願寺と号する天台宗の寺院で、西国三十三所観音霊場の第十九番札所です。

寛弘元年(1004)に行円上人によって、一条小川(上京区)に創建されました。開基の行円上人はもとは豊後国速見郡(=大分県)の人で獵師だったようです。子を孕んだ母鹿を射止めてしまったことを悔いた上人が、常にその皮をまとして鹿を憐れみ、人々から皮聖と呼ばれていたことから、革堂と呼ばれるようになりました。

以後、人々からの厚い信仰を受け、町堂として大いに栄えたが、度々の災火により寺地を転々とし、宝永五年(1708)の大火の後、当地に移されました。

現在の本堂は、文化十二年(1815)に建てられたもので、堂内には行円上人の作と伝えられる本尊千手観音像を安置しています。



### 本堂

1815年に再建されたものです。内部には、行円上人(ぎょうえんしょうにん)が造ったと伝わる本尊の千手観音像が祀られています。現在、本尊の千手観音像は秘仏扱いで、公開は毎年1月17・18日の初観音の日だけです。京都市の指定文化財にもなっています。

本尊は千手観音像。行円が夢のお告げを得て、賀茂神社の傍にある苔蒸した槻(つき、けやきの一種)を神官に乞うけて、観音菩薩像を刻んだものと伝わるのです。そこで、行願寺は西国三十三所観音霊場第19番札所となっています。

本堂に向かって、右側手前に小祠、外縁部にはびんずる様。

こちらのびんずる様は唐破風造の小祠に安置されています。びんずる様も安置のしかたは様々です。

本堂の左脇には、この石碑があります。行円上人が宝冠を被り、革服を身に着けられている姿が見えます。下部には「発心真正 即到聖伝」という文字が刻されています。